

ふじみサラダボール子育て情報

「自我の芽生えは賢さの芽生え」

令和4年5月18日号

板橋富士見幼稚園



「ママ買って買って!」「だって!」

人が老いるまでの中で、最も著しく発達する時期は幼児期の6歳ごろまでと言われています。親は子どもの著しい発達の変化に対して戸惑い、「最近うちの子、私の言うことを聞かなくなって困る」というような話をよく聞きます。

幼児が言葉を覚えて話し始めるころ、感情も同時に細やかになってきます。生後間もなく始まる、泣く（ネガティブ）と笑う（ポジティブ）という単純な感情から、自分の欲求に合わせて様々な感情を、自分で表現し伝えようとする意識が次第にはっきりしてくるのです。

そのため、今までよりも自己主張が強くなってきます。思いが通るまでダダをこねたり、自分にとって有利になるよう働きかけたりする姿もよく見られるようになります。これは幼児から子どもへ、人間として知的な能力が育ってきている証なのです。

しかし、それまでのように全てを親の思う通りに従わせようとする、子どもは自己の思いや考えを外に出せないことを自覚してしまいます。

「言っても、どうせダメだから」と思うことを癖にしてしまうと、思いがあるにも関わらず「・・・いや」と、諦めて思いを伝えなくなってしまい、成長と共に人前で話すのが苦手という姿として現れることもあります。

親子間の何気ないやり取りを通して、自分の思いや考え、欲求などが伝えられるということは、絶対的な信頼関係の育ちが完成している証拠なのです。



【写真：年長さんで畑に野菜の苗を植えました】

我がままと思うこともあろうかと思いますが、対話ではまず「どうして」「なんで」と子どもが主張する意味を聞き出してあげることが大切です。その上で、しっかりと理由を伝えて、納得し合う対話を心がけてみてください。

せっかく、伸びようとする力に蓋をしないように、キャッチボールできる対話を心掛けてください。今が、一番大切な時期です。